

活動報告書

事業ID: 2018482977

事業名: 沖縄県うるま市における第三の居場所(B)の運営

団体名: 特定非営利活動法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい

事業完了日: 2019年3月31日

1. 事業内容

沖縄県うるま市における第三の居場所(B)の運営

(1) 期間: 2019年2月～2019年3月

(2) 場所: 沖縄県うるま市内

(3) 内容: 「第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完するため、拠点には専門スタッフを配置し、子ども達の生活習慣形成や非認知能力・学習意欲向上を図る。

2. 事業内容詳細:

対象学校の児童生徒に放課後から夜9時までの間、安心して安全に過ごすことのできる居場所を提供し、宿題の補助や読み聞かせ、体験プログラムによって学習支援を行いながら、ニーズに応じて食事を提供し、歯磨き、入浴に関する生活習慣の形成をサポートした。また、学校や行政等各種関係団体とのケース会議に参加した他、保護者への相談援助業務を行うことによって子ども達が安心して過ごせる「第三の居場所」外における育成環境の醸成にも寄与した。

3. 契約時事業目標の達成状況:

【助成契約書記載の目標】

1. 拠点利用児童の募集
2. 児童への居場所・読み聞かせ、学習支援・食事の提供
3. 保護者、地域、行政との関係構築
4. 全国展開に耐える事業モデルの構築

【目標の達成状況】

1. 行政と協力して拠点利用児童の募集を行った。
2. 全開所日において実施した。食事の提供については児童と保護者の世帯ごとのニーズに応じた対応をとった。
3. 保護者との関係性: 送迎の際に子ども達の様子を伝えたり、子育ての悩み相談など行うことにより、信頼関係の構築に繋がった。また、拠点をすることで情緒安定した保護者が就労に繋がったケースもある。

地域との関係性: 地域イベントに参加させて頂いたり、地域向けのお祭りを企画したことで、地域との交流が出来るようになり、困難を抱えた子ども達の発見や繋ぎなどが出来るようになった。

行政との関係性: 立ち上げ当初から窓口になって頂いた子ども未来課の協力もあり、他部署とも円滑に連携を行うことが出来ている。

4. 地域や行政との繋がりを重視しつつ、社会的相続を補完するための知見を蓄積し、他拠点にも展開できる仕組みを採用した。たとえば、ケース会議に参加したり、子ども・家族支援を行える拠点として認知していただけるようになった。しかし、拠点のみの支援には限度があることから、関係機関と包括的な支援を行えるようになり幅広い支援が出来るようになっている。